

令和5年度 長崎市立三重中学校

令和 6 年 2 月 26 日

学校だより

わくわくする学校

文責

合言葉「考えて行動する」

長崎市立三重中学校

<http://www.nagasaki-city.ed.jp/mie-i/>

校長 田添 俊和

三重地区公民館まつり

2月24日(土)～25日(日)

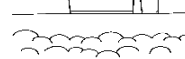
三重地区公民館まつりに本校から、児童生徒の意見発表会に生徒会長、ステージ発表に吹奏楽部が参加しました。また、国語科の書写や美術科の作品なども出品して展示されました。

今回は、意見発表した内容を掲載します。「三重地区」に対する思いが述べられています。

(紙面の都合上、要約したものを掲載しています)



「三重地区」について考える



三重地区は、私のふるさとです。私は、三重地区で生まれ、三重地区で育ちました。三重は、私にとって大切なふるさとだからこそ、今回三重地区のこれからについて、真剣に考えました。

この町は広大な山、きれいな海があり、自然豊かな体験ができる町だと思います。山では、四季を感じることでできる生き物や動物、植物があります。私の家の周りでも、生き物がたくさんいて、小さい頃から虫取りなどをすることがありました。

また、海では、町の外からも釣りに来る人が多く、私も休日に父や友人と釣りに出かけることがあります。このように、都会ではできない体験をこの三重地区ではできます。

私が小学校四年生の頃、グリーンツーリズムというイベントがありました。グリーンツーリズムとは、農山漁村で農林漁業体験やその地域の自然、文化、地域の方との交流を楽しむ滞在型の活動のことです。このイベントでは私は、地域の方と交流することができ、自然の美しさを今一度考える機会になりました。私は、小学生に限らず、中学生、高校生、社会人からでもこういう体験をして欲しいなと思いました。

私は、行事で人と交流することが好きですが、コロナ禍になり、四、五年前から地域行事はなくなり、小規模になったりと、前に比べたら盛り上がり小さくなったと思います。最近では、コロナも減少傾向にあり、行事をそろそろ再開しても良いんじゃないのかなと思いました。コロナだけの問題ではないと思います。参加者が少なかったり、運営側の大変さなどからきているのではないかと思います。今よりもっと多くの人が行事を盛り上げるために立ち上がることが大切だと思うし、そうしないと続かないと思います。

私が生まれる何十年も前からある行事が、私たちの代で私は終わらせたくないです。この三重地区公民館まつりだって、今年でもう六十回目。今までの人が繋ぎ、繋ぎ、繋ぎと続いてきたから今まで成り立っています。港まつり、子供パーロン、三重くんち、三重運動会、盆踊りだってすべて繋げてきたから今があるんです。一人や二人では成り立たない。それが行事だと思います。皆さんで力を合わせることを大事だと私は思いました。

京泊公園には、健康器具というのがあり、公園に行くときよく利用している人を見かけます。ここ最近の三重地区は、子供が増えてきていますが、最近の子供たちはゲーム機器が普及し、家で遊んでいる人が昔より増えたと思います。そして、四、五年前と比べたら公園で遊ぶ人が少なくなったと思います。使わない公園をうまく利用することができれば、公園で遊ぶ人が増えると思います。

健康器具は、人が集まりやすく、コミュニティの場にもなり、健康にもなると思います。一石三鳥です。そういう場を設けても損はないのかなと思いました。

逆に、変わってほしくないところは、地域の人たちのやさしさです。これが地域にとってこれから大切にしたいところです。人と人が繋がることの大切さは大事なことだと思います。そうやって人は、支え合いながら生きています。それができている三重地区は、これからも成長していくんだろうなと思います。

次は私たちの番と言うのはまだ早い中学生ですが、中学生にもできることはたくさんあると思います。明日からではなく、今から変われます。この一秒一秒をどのように大事に使うかが大切だと思います。今回の発表の機会をいただいたことで、地域について再確認、そして、再発見することができました。ぜひ皆さんも試してみてください。

【ちょっといい話⑭】

「あいさつ運動」に参加していただいた保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。

私はいつもは校門付近に立っているのですが、先週は場所を変えて三重中前バス停の信号付近で「あいさつ運動」を行いました。すると、校門付近で見るとは違った生徒の登校の様子が見られ、新たな発見がありました。たとえば、横断歩道を渡る様子。押しボタンを押して、信号が変わるまできちんと待つことはもちろんですが、私が見ている限りでは、信号が点滅して横断歩道を渡る生徒はほとんどいなく、逆に点滅しだすと歩みを止めて、次の信号を待つ生徒が多かったように感じます。当たり前のことかもしれませんが、交通ルールやマナーが守られていることに感心しました。

さらに、生徒の中には、渡り終えた後くると方向を変えて、渡るのを待っていてくれた車の運転手さんにお礼のあいさつをする生徒もいました。そのような姿を見て、心が洗われる思いがしました。

